会 議 録

会議名	令和3年度第2回相模原市障害者自立支援協議会全体会議		
事務局 (担当課)	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 電話 042-758-2121		
開催日時	令和3年10月29日(金) 午前10時から正午まで		
開催場所	T e a m s を活用したオンライン会議		
出席者	委員	出席 15人 欠席 4人	
	その他	各部長 出席 3人 欠席 1名 福祉基盤課 出席 1人 高齢・障害者福祉課 出席 2人	
	事務局	6人 市：高齢・障害者福祉課 2人 社会福祉事業団：生活相談課 4人	
公開の可否	☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	1名
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 各部会の報告 (2) 中央障害者相談支援キーステーション設置検討ワーキングについて報告 (3) 日中サービス支援型グループホーム評価ワーキングについて報告 (4) 地域生活支援拠点の報告 3 その他 4 閉 会		

令和3年度第2回相模原市障害者自立支援協会委員名簿及び出欠状況

No.	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長 (やまびこ工房 施設長)	なかじま ひろゆき 中島 博幸	欠
2		相模原市障害福祉事業所協会 代表総務 (くりのみ学園 園長)	いまい やすのり 今井 康雅	出
3		相模原市障害福祉事業所協会 人権委員会委員 (城山障害者デイサービスセンターつくしの家 統括責任者)	きづ よしえ 木津 芳枝	欠
4		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会長	にしむら きぶろう 西村 三郎	出
5		(福)相模原市社会福祉協議会 南区事務所長	あべ ゆきお 阿部 幸夫	出
6		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	きたがわ はるえ 北川 春恵	出
7	指定相談支援事業者	橋本障害者地域活動支援センター ふらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
8		子ども相談支援リボン (NPO法人ワンダートンネル理事長)	ちや ふみこ 千谷 史子	欠
9	障害者等及び その家族	(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 副会長	はねだ ひさし 羽田 彌	出
10		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	かたおか かよこ 片岡 加代子	出
11		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	まつばら みちこ 松原 充子	出
12	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会 (北里大学病院トータルサポートセンター ソーシャル ワーカー)	だいなか たく 提中 拓	出
13	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 総括教諭	しまづ ようこ 島津 陽子	出
14		教育局学校教育部学校教育課長	まつもと よしかつ 松本 祥勝	欠
15	関係行政機関の職員	健康福祉局地域包括ケア推進部 地域包括ケア推進課長	すぎおか ゆきのり 杉岡 幸徳 (代理出席)	出
16		健康福祉局地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課長	よねやま まもる 米山 守	出
17		健康福祉局地域包括ケア推進部 精神保健福祉課長	すぎき まさふみ 鈴木 雅文	出
18		こども・若者未来局陽光園所長	あまの とおる 天野 徹	出
19	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

(各部会長の出欠状況)

人材育成部会	県央福祉会	えびさわ ゆうじ 海老沢 祐次	出
権利擁護・虐待防止検討部会	高齢・障害者福祉課	はば けんご 羽場 建護	出
中央区課題検討会	児童発達支援センター青い鳥	もりや ひさし 守屋 久	欠
地域課題調整部会 南区課題検討会	南障害者地域活動支援センター	ほりこし えみこ 堀越 恵美子	出

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は会長、○は委員、■は事務局の発言)

1 開 会

村井会長より、開会の挨拶があった。

2 議 題

(1) 各部会の報告

ア 人材育成部会の報告

会議録に沿って、部会長より報告があった。意見等は次のとおり。

- 令和5年度を目途に精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムが構築されていくと思うが、当事者の意見もきちんと取り入れてもらいたい。
- 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、当事者やピアサポーター等の意見を取り入れながら進めていく必要があると思う。
- ◎ 福祉分野における人材不足という課題は確かにある。他市に目を向けると、福祉分野についての広報やPR戦略に力を入れているところがある。プライベートと仕事を両立できる働き方を福祉分野にも取り入れる必要がある。
- 市社会福祉協議会でも福祉人材の育成が課題の一つとなっているため、連携しながら取り組んでいきたい。
- 福祉分野で働き始めた人がすぐに辞めてしまう状況なので、定着してもらうことは大切だと思う。
- ◎ 福祉分野への就職を決めた理由の20.8%が中学校などの職場体験だという調査結果もある。早い段階から良い体験ができると、福祉分野が就職の選択肢になるのかもしれない。
- 市社会福祉協議会で以前、大学生や高校生などに対して、福祉施設の職員から現場の魅力を伝えてもらう取組を実施していたが、現在はどのよう

になっているのか。

- 現在も「福祉の仕事・魅力発信事業（キャリア教育推進事業）」として実施している。施設の若手職員から、施設で働くようになったきっかけ、働いている際の気付き、仕事のやりがいなどを話してもらい、参加者の福祉の仕事に対する興味関心を高めてもらうことを目的とした事業である。市社会福祉協議会が大学、短大、高校などに働きかけ、依頼があった際には、近くの福祉施設に協力いただいて、学校の授業の一コマを活用して実施している。コロナ禍の下では、学校などからの依頼がなく、福祉施設への協力の呼びかけも休止している状況であるが、昨年度は1校申込みがあったため、対応を行った。コロナ禍が落ち着いてきたら、本事業を再開し、学校と福祉施設の協力の下、福祉の仕事の魅力を発信していきたい。（阿部委員より後日回答）

イ 権利擁護・虐待防止検討部会の報告

会議録に沿って、部会長より報告があった。意見等は次のとおり。

- 市内に放課後等デイサービスが増加していることは喜ばしいが、その反面、支援内容等に課題があるという話も聞いているため、放課後等デイサービスに対する虐待防止に関する取組は良いと思う。
- ◎ 市社会福祉協議会内に放課後等デイサービスの事業所を中心とした会はあるか。
- 保育園等が会員になっている児童福祉部会への加入の呼びかけは行っているが、現時点で加入している事業所はない状況である。
- ◎ 市社会福祉協議会のネットワークも活用していくと良い。虐待の問題については、事業所の自浄能力がないと難しい。
- 部会で作成したDVDは視聴できないのか。
- 現在、DVDについて視聴する機会や活用方法等を検討している。内容としては、ケガをした児童を心配した放課後等デイサービスの従事者が管理者に報告、行政へ相談、児童の両親と対面していくという展開である。懸念事項として、DVDを観た従事者が、児童の両親との関係が悪化することを危惧して通告しなくなってしまう恐れがあるため、活用方法を慎重に議論している。
- 虐待防止研修については、非常勤職員を含めた全従事者が参加する必要があると思う。
- 国の動きとして、令和4年度より虐待防止研修の義務化が進んでいるところである。非常勤も含めた全従事者が虐待防止研修の対象となる。

ウ 地域課題調整部会の報告

会議録に沿って、部会長より報告があった。意見等は次のとおり。

- 中央障害者相談支援キーステーションの設置について検討されているのはありがたい。以前は、中央区には精神保健福祉センターも基幹相談支援センターもあるため、設置しないと聞いたことがあったが、今回設置の検討に至った経緯はどのようなものか。
- ◎ 既存の障害者相談支援キーステーションの実績により、中央区に設置する必要性が強くなったのではないかと考えているが、まだ検討段階であるため、設置が決定しているわけではない。
- 障害者相談支援キーステーションについては、南区での試行期間を経て本格的に始動した。当初に想定した役割から変わってきている部分がある一方で、予想以上の効果を上げている部分もある。中央障害者相談支援キーステーション設置検討ワーキングでは、今後どのような形の障害者相談支援キーステーションが設置されることが望ましいのかを検討している。
- 相模原中央支援学校でも、中央障害者相談支援キーステーションの設置が検討されていることは話題になっている。
- 相談支援体制が拡大している中で、基幹相談支援センターと障害者相談支援キーステーションについては、設置された当時と比べて周囲を含めた状況が変わってきている。
- ◎ 中央障害者相談支援キーステーションの設置については、良い報告ができるよう、引き続きワーキングで検討を重ねていきたい。

エ 南区課題検討会の報告

会議録に沿って、部会長より報告があった。意見等は次のとおり。

- ◎ 当協議会では、いくつも成果物ができているが、作って終わりではなく、周知や啓発、活用していくことが大事である。

オ 中央区課題検討会の報告

会議録に沿って、事務局より報告を行った。意見等は特になし。

カ 緑区課題検討会の報告

会議録及び資料1に沿って、部会長より報告・説明があった。意見等は次のとおり。

- 地域包括ケア支援システムには既に様々な情報が載っているが、それを更に充実させるのか。
- その通り。既に掲載されている情報に加えて、インフォーマルな情報も

掲載したいと考えている。

- 地域包括ケアシステムを推進していく中では、非常に重要なツールであると考えている。これからも活用に関して様々な意見をいただきたい。
- ◎ 地域包括ケア支援システムを活用できるようになった後は、定期的な改良が必要になる。

審議事項として、資料1「緑区課題検討会からの提案書」の市への提出について協議し、承認された。

(2) 中央障害者相談支援キーステーション設置検討ワーキングについて報告

資料2に沿って、事務局より次のとおり説明を行った。

■ 地域課題調整部会から立ち上げられたワーキンググループであり、10月26日(火)に第1回ワーキングを開催した。メンバーについては資料2のとおりである。現在の市相談支援体制の評価、各機関の役割の整理を経て、市への提言書を作り上げたいと考えている。ブレインストーミングの手法で、市の相談支援体制について思うことに活発な意見をいただいた。次回は基幹相談支援センターと障害者相談支援キーステーションの役割について、議論をしていきたいと考えている。

■ 近年、市内の障害者の増加もあり、相談支援が多様化しており、相談支援専門員の専門性の確保が求められている。今回、中央障害者相談支援キーステーションの設置の検討にあたっては、こうした背景を踏まえた上で、市の相談支援体制のあり方を検討してもらいたいと考えている。今後、中央区に障害者相談支援キーステーションの設置が必要であるかを検証し、令和4年8月に結論をまとめ、令和5年度の設置に向けて進めていきたいと考えている。

◎ 現在は、まだブレインストーミングの段階ではあるが、既存の障害者相談支援キーステーションの今後の在り方と、中央区に障害者相談支援キーステーションを設置する場合にはどのような役割を持たせるかを検討している。障害者相談支援キーステーションのようなシンボリックなものが設置されると、そこに課題が集約されやすくなり、それぞれの機関の役割や連携体制が曖昧になってしまうため、相談支援体制の構造をどのように整理していくかが課題となってくる。

(3) 日中サービス支援型グループホーム評価ワーキングについて報告

資料3に沿って、福祉基盤課より説明があった。意見等は特になし。

(4) 地域生活支援拠点の報告

資料4に沿って、高齢・障害者福祉課より説明があった。意見等は次のとおり。

- 地域生活支援拠点等の目的において、「(2) 体験の機会の提供を通じて、入所施設や病院、親元から、グループホームなどを活用した一人暮らし等への生活の場を移行しやすくする支援を提供」とあるが、これはどのような意味なのか教えていただきたい。
- 地域生活支援拠点等の目的は、緊急時の相談体制と受入れ（入所）の体制を整備することと、障害福祉サービスにつながない地域の障害者等に、グループホームや一人暮らしなど地域での生活の体験の機会を提供し、地域社会への移行を推進していくことである。緊急時の対応と体験の機会の提供は直接関わりを持つわけではないが、障害者の地域移行と緊急時の受入れができる体制を併せて整備していくことになっている。
- 病院の入院患者から帰る先がないと相談を受けることがある。本人がグループホームでの生活をイメージできておらず、空きがないと体験もできないため入院が延びてしまうことがある。そのような機会が増えれば、病院の従事者にとってもありがたいと思う。
- 以前から、相模原中央支援学校を卒業していく重度心身障害者の行き先が非常に少ないと感じている。行き先が限られており、卒業後に週5日通える場所がない。保護者は、緊急事態があった時の行き先がないことを心配しているため、拡充してほしい。
- 政令指定都市の相模原市という広い範囲で整備をしていく中では、拠点となる場所を各区に一つずつ設置することも検討してほしい。
- ◎ 体制の整備については、地域に密着しながら行っていくと同時に、緊急性が高い案件として市を挙げて取り組んでいただきたい。

3 その他

(1) 研修案内

チラシに沿って、事務局より説明を行った。

4 閉会

羽田委員より、閉会の挨拶があった。

以上